



文部科学省



国立研究開発法人
科学技術振興機構

資料2
科学技術・学術審議会
基礎研究振興部会(第8回)
令和4年7月7日

創発的研究支援の充実に向けて

令和4年7月7日

研究振興局 学術研究推進課



FOREST

失敗を恐れない、自由で挑戦的・融合的な研究に挑む。

Fusion Oriented
REsearch for disruptive
Science and Technology

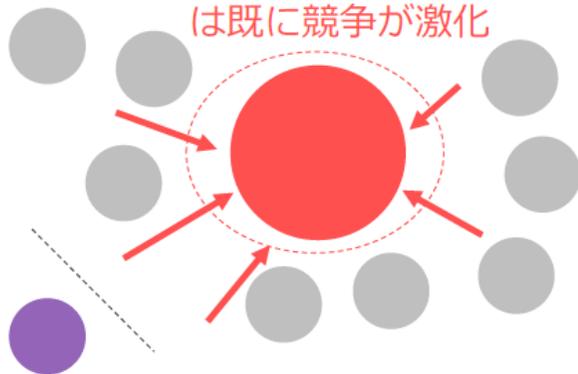
創発的研究支援事業 創設の契機

限られた財源の中で競争力のある研究開発を行うためには、政府研究開発投資の配分のあり方を見直す必要がある。その基本概念は、「**選択と集中**」から「**戦略と創発**」への転換である。(中略)

創発的研究は、破壊的イノベーションをもたらすシーズの創出を目指す研究である。破壊的イノベーションは予期せぬところから生じるものであることから、特定の課題や短期的な目標設定を行うことは、かえって逆効果になりかねない。むしろ、**失敗を恐れな**い野心的な挑戦を奨励しつつ、**研究現場の多様性を高めるとともに、多様な個人や学問領域の融合を促すことで、想定外の研究成果が生まれる可能性を向上させていくことが求められる。**

選択と集中

選択・集中する分野
は既に競争が激化



破壊的イノベーションは選択から外れた想定外の分野から起きる

戦略と創発

Society 5.0の実現を
目指す**戦略的研究**



課題や短期目標を設定せず、多様性と融合によって破壊的イノベーションの創出を目指す**創発的研究**



創発的研究支援事業

令和4年度予算額
(前年度予算額)

60百万円
60百万円)



令和3年度補正予算額 5,280百万円
(令和元年度・2年度補正予算により計634億円の基金を造成)

事業の概要

自由で挑戦的・融合的な構想に、リスクを恐れず挑戦し続ける**独立前後の多様な研究者**を対象に、**最長10年間の安定した研究資金**と、**研究者が研究に専念できる環境の確保**を一体的に支援する。

応募要件：大学等における**独立した／独立が見込まれる研究者**

- 博士号取得後15年以内（出産・育児等ライフイベント経験者は別途要件緩和）

採択件数：**250件程度**（予定）（令和4年度公募予定の第3期生）

- 令和4年度当初予算において、第3期生の新規公募に係る経費を計上。

【参考】過去の採択件数：**第1期生** 252件、**第2期生** 259件

【事業スキーム】

文部科学省

基金造成

科学技術振興機構

研究支援
環境改善支援

研究者・所属機関

特徴

研究資金と研究環境の一体的な支援のもと、挑戦的な研究を「**創発の場**」を形成しつつ強力に推進

(700万円/年(平均)+間接経費) × 7年間(最長10年間) の長期的な研究資金

- 研究の進捗や研究者の環境等に応じ機動的に運用。
- **バイアウト制度**(研究以外の業務の代行に係る経費を支出可能)のほか、研究代表者の人件費(**PI人件費**)を支出できる仕組みを先行的に導入。
- 研究開始から3年目、7年目にステージゲート審査を設け、研究の進捗等を評価。



研究環境改善のための追加的な支援

- 採択研究者の研究時間確保など**環境改善に努めた所属機関**を追加的に支援し、取組を引き出す。
- RAとして参画する博士課程学生等への支援も実施。



「創発の場」の形成

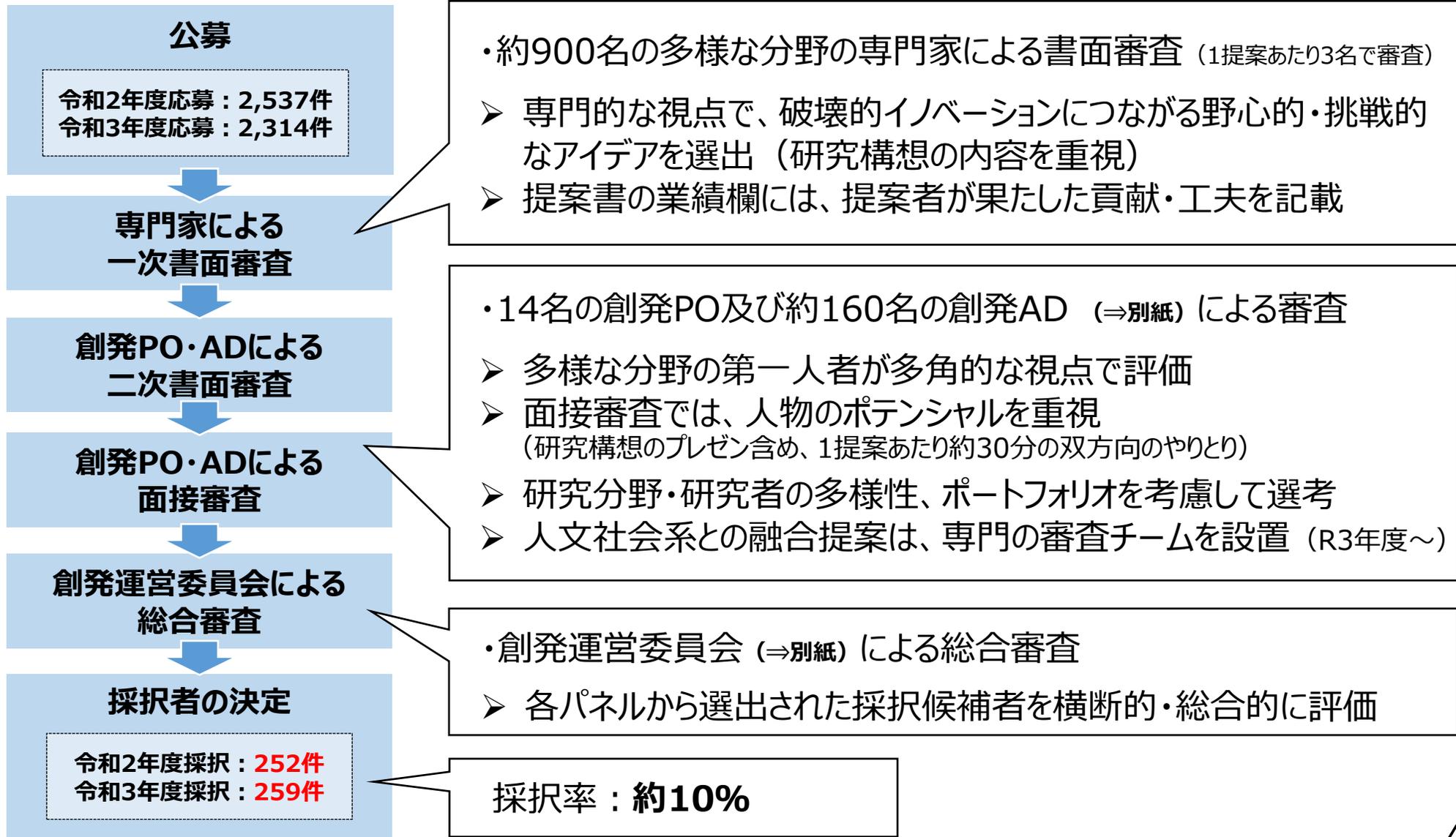
- POによるマネジメントの下、採択研究者同士が互いに**切磋琢磨し相互触発**する場を提供。



優れた人材の意欲と研究時間を最大化し、研究に専念 ⇒ 破壊的イノベーションにつながる成果へ

これまで2回の公募における選考プロセス

■多段階の書面審査に加え、面接（プレゼン/質疑）による人物評価を組み合わせ選考。



創発運営委員会



【委員長】
西尾 章治郎 大阪大学 総長

【委員】
荒井 緑
慶應義塾大学 理工学部 教授



篠原 弘道
日本電信電話株式会社 相談役



長谷山 美紀
北海道大学 副学長
大学院情報科学研究院 院長



原田 尚美
海洋研究開発機構 地球環境部門 部門長

事業全体の運営方針の検討・立案、選考等の審議



梶田 隆章
東京大学 宇宙線研究所 教授



華山 力成
金沢大学 ナノ生命科学研究所 教授



濱口 道成
科学技術振興機構 参与



進捗状況、選考・評価結果等の報告

創発PO (全14名)

創発AD (アドバイザー) の協力を得ながら、専門分野を中心に、**研究課題の選考・評価、研究計画の精査・承認**のほか、採択研究者への**指導・進捗管理**を実施

北川 宏 京都大学大学院 理学研究科 教授
水島 昇 東京大学大学院 医学系研究科 教授 (ほか)

創発AD
(全約160名)

創発人社チーフAD

創発プログラム・オフィサー（14名）：研究者の審査・採択、メンタリング、創発の場運営（融合促進）



阿部 敬悦

東北大学大学院
農学研究科 教授

【専門】応用微生物学、
農芸化学



川村 光

大阪大学
名誉教授

【専門】物性科学



堀 宗朗

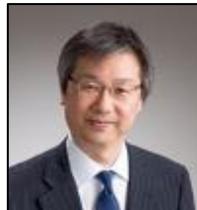
海洋研究開発機構
部門長

【専門】応用力学、
計算地震工学

天谷 雅行

慶應義塾大学
理事・教授

【専門】皮膚科学、
免疫学



北川 宏

京都大学
教授

【専門】固体物性化学、
ナノ物質科学



水島 昇

東京大学
教授

【専門】医化学、
細胞生物学



石塚 真由美

北海道大学
教授

【専門】化学物質影響、
環境農学、獣医学



合田 裕紀子

理化学研究所
副センター長

【専門】神経科学、
脳神経科学



八木 康史

大阪大学
教授

【専門】知覚情報処理、
知能ロボティクス

福島 孝典

東京工業大学
教授

【専門】有機化学、高分子化学



塩見 美喜子

東京大学
教授

【専門】RNA生物学



吉田 尚弘

東京工業大学
名誉教授

【専門】環境動態解析、
地球化学



井村 順一

東京工業大学
理事・副学長・教授

【専門】制御工学



田中 純子

広島大学
理事・副学長・教授

【専門】公衆衛生学、
社会科学



小林 傳司

大阪大学
特任教授、創発人社チーフAD

【専門】科学哲学、
科学技術社会論

令和4年度（第3回）公募について

■これまでの公募（JSTに造成した基金により、今年度まで3回の公募・採択が可能）



■これまでの主な改善点

【第1期⇒第2期】

- ・人文・社会科学系のAD及び審査チームを新設し、選考の機能を強化
- ・審査パネル（PO・AD）を公開
- ・博士課程学生に対するRA追加支援を導入 等

【第2期⇒第3期】

- ・異なる機関での研究歴など多様な研究経験を有することを審査の観点に追加 等

■第3回公募スケジュール（参考）

募集開始	2022年5月12日（木）
受付締切	7月20日（水）
書類選考	7月～11月上旬（予定）
面接選考	11月中旬～12月（予定）
採択結果の通知・発表	1月以降 順次通知・発表（予定）
研究開始	2023年4月開始（予定）

壮大で挑戦的な構想に
果敢に挑む研究者の皆さまへ

創発的研究支援事業
2022年度公募のご案内

公募期間：5月12日（木）～
7月20日（水）午前12時（正午）

我々は、研究者としての大きな夢の実現に向けて
リスクを恐れずに果敢に挑戦する皆さまを、全力で応援します！

創発的研究支援事業

- 失敗を恐れず長期的に取り組む必要がある挑戦的・独創的な内容で、多様性と融合によって破壊的イノベーションにつながるシーズを創出する潜在性のある多様な研究課題を支援
- 独立前線^{※1}の多様な研究者（博士号取得後15年以内^{※2}）が対象
- ^{※1} 独立前の場合、3年以内に条件を満たすという「寛限」のある研究者視座点で独立に関する条件を満たしていることも応募・採択が可能
- ^{※2} 研究者のライフイベントを別途考慮
- 平均700万円（+間接経費）の研究資金を原則7年間（最長10年間）支援
- 個々の研究者が研究に専念するための研究環境の確保を支援
- 研究者同士が切磋琢磨し相互に触発する場（創発の場）を提供

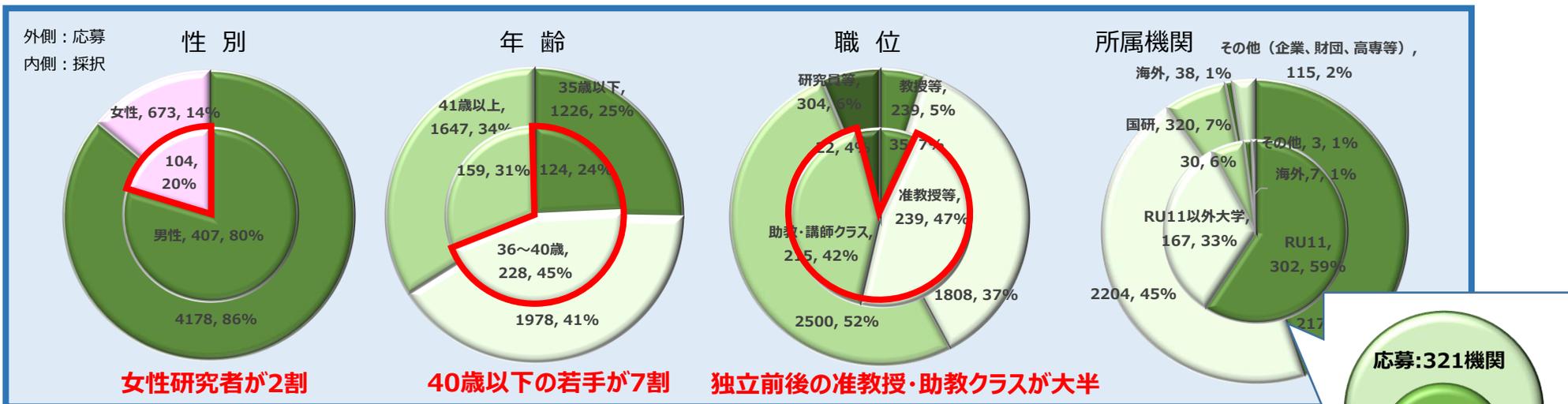
詳細はこちらから
（創発的研究支援事業HP）

Photo by Vectors on Unsplash

創発的研究支援事業
Fusion Oriented Search for Disruptive Science and Technology

これまで2回の公募で採択した“創発研究者”の特徴等

■ 若手中心に約5,000件の応募 ⇒ 挑戦的・野心的な511名を採択。



女性研究者が2割

40歳以下の若手が7割

独立前後の准教授・助教クラスが大半

■ 採択時点で約8割が機関異動経験。約6割が海外機関での研究経験。

- ・機関・異動経験がある研究者：425名／511名（83%）
- ・海外での研究経験がある研究者：282名／511名（55%）うち採択時海外在籍：7名

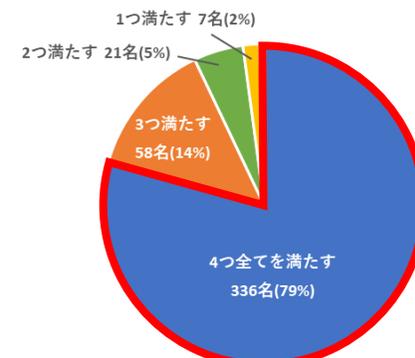
■ 現時点で多くの創発研究者（約8割）が独立環境を獲得。

- ・自身の研究構想のもと、既に一定程度、独立した研究環境の元で研究に取り組むことができている。
⇒ 3年目のステージゲートまでに、機関・研究者双方の尽力のもと全員の独立を目指す

【創発事業で設定する「独立の要件」】

- ① 自己の研究に係る論文について、責任著者の立場にあること
- ② 大学院生等の指導に責任を持つこと、又は持つ立場にあること
- ③ 研究グループを組織して研究を行う場合は、そのグループの責任者であること
- ④ 研究室を持つこと（※）

※ 独立した研究を行うために必要な研究設備を設置する部屋や研究を遂行する部屋の管理の責任者であること。



独立要件を満たしているか
(本年5月時点)

これまで2回の公募における採択結果（所属機関別）

■全国の研究機関（海外含む）から、一定の多様性を確保しつつ採択。

所属	採択	所属	採択	所属	採択	所属	採択	所属	採択
東京大学	56	岡山大学	5	量子科学技術研究開発機構	2	ミシガン大学	1	長崎国際大学	1
東北大学	40	徳島大学	5	大阪府立大学	2	テキサス大学	1	同志社大学	1
京都大学	40	順天堂大学	4	豊橋技術科学大学	2	コネチカット大学	1	北見工業大学	1
名古屋大学	38	東京都立大学	3	富山大学	2	オックスフォード大学	1	横浜国立大学	1
大阪大学	34	東京理科大学	3	信州大学	2	お茶の水女子大学	1	関西医科大学	1
九州大学	23	岐阜大学	3	静岡大学	2	宇宙航空研究開発機構	1	高知工科大学	1
東京工業大学	21	鳥取大学	3	高エネルギー加速器研究機構	2	森林研究・整備機構	1	横浜市立大学	1
筑波大学	17	長崎大学	3	名古屋市立大学	2	愛知県がんセンター	1	成蹊大学	1
北海道大学	14	沖縄科学技術大学院大学	3	藤田医科大学	2	基礎生物学研究所	1	青山学院大学	1
慶應義塾大学	11	海洋研究開発機構	3	東海大学	2	自治医科大学	1	鹿児島大学	1
金沢大学	11	国立がん研究センター	3	東京慈恵会医科大学	2	東京女子医科大学	1	大阪市立大学	1
熊本大学	11	物質・材料研究機構	3	長岡技術科学大学	2	国立情報学研究所	1	杏林大学	1
産業技術総合研究所	8	分子科学研究所	3	山形大学	2	帝京大学	1	宮崎大学	1
理化学研究所	8	香川大学	2	山梨大学	2	千葉県がんセンター	1	秋田大学	1
千葉大学	7	東京都医学総合研究所	2	群馬大学	2	京都府立医科大学	1	三重大学	1
早稲田大学	7	芝浦工業大学	2	奈良先端科学技術大学院大学	2	帯広畜産大学	1	東京海洋大学	1
広島大学	7	福井大学	2	北陸先端科学技術大学院大学	1	小山工業高等専門学校	1	龍谷大学	1
東京医科歯科大学	5	明治大学	2	日本原子力研究開発機構	1	札幌医科大学	1	近畿大学	1
東京農工大学	5	山口大学	2	マックスプランク研究所	1	静岡県立大学	1	がん研究会	1
電気通信大学	5	埼玉大学	2	フリッツ・ハーバー研究所	1	国立極地研究所	1	東京農業大学	1
神戸大学	5	新潟大学	2	オーストラリア国立大学	1	生理学研究所	1		

計104機関、全国40都道府県から採択（採択時）

採択後の波及効果①

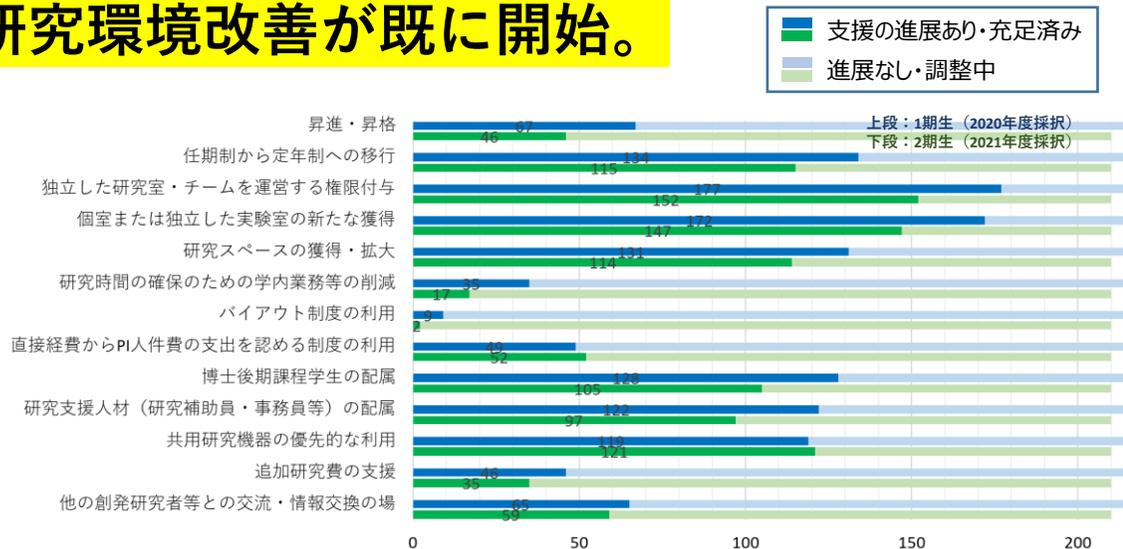
採択を機に、所属機関による研究環境改善が既に開始。

・創発研究者の**41%**が、採択後に所属機関から新たに何らかの研究環境改善支援を獲得。

(1期生:49% / 2期生:33%)

・創発研究者の総勤務時間に対する研究活動時間の割合は**約67%**(平均)。一定程度の研究時間が確保されているとみられる。

参考：H30年度FTE調査による研究時間の割合は、准教授平均32.8%、助教平均38.3%



所属機関からの支援の状況 (本年5月時点)
※各項目とも上段が1期生(有効回答214名)、下段が2期生(同210名)

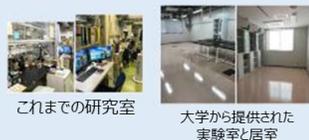
【創発研究者と支援の例】

こうむら なおこ
河村 奈緒子 (36)
岐阜大学
糖鎖生命コア研究所 助教

■世界で初めて、糖鎖※の革新的な合成技術を開発。岐阜大学が注力する“糖鎖科学”を牽引。

※生体内で重要な役割を果たす、糖が鎖状に連なった物質の総称。

■**創発採択を機に、大学から研究室提供等のサポート**を受け研究に専念。



■昨年12月、糖鎖科学に関する**国際的な若手研究者賞**であるICO Young Investigator Awardをアジア圏ではじめて受賞。

くぼた こうじ
久保田浩司 (33)
北海道大学大学院
工学研究院 准教授

■北大で2016年に博士号取得(短縮修了)後、米UC Berkley及びMITにて2年間研究。

■帰国後は北大工学研究院及びWPI-ICReDDで任期つきの特任助教。

■創発採択後2021年からは**テニュアトラック准教授**※へ。**独立した研究スペース提供**や**学内会議の免除**など、部局から手厚い支援。



※将来のリーダーたりうる意欲的な若手研究者の研究環境確保に取り組む「アンビシャステニュアトラック制度」を適用

くまがい しょうご
熊谷 将吾 (36)
東北大学大学院
環境科学研究科 助教
プロモントリサーチフェロー

■高専卒業後、東北大に編入学し研究者の道へ。自身の研究構想で独立を目指し創発に応募。

■創発採択後、**大学から専用の実験室や追加の研究費等を提供**。総長による**ヒアリング**も実施。

■本年4月、令和4年度の**文部科学大臣表彰若手科学者賞**を受賞。

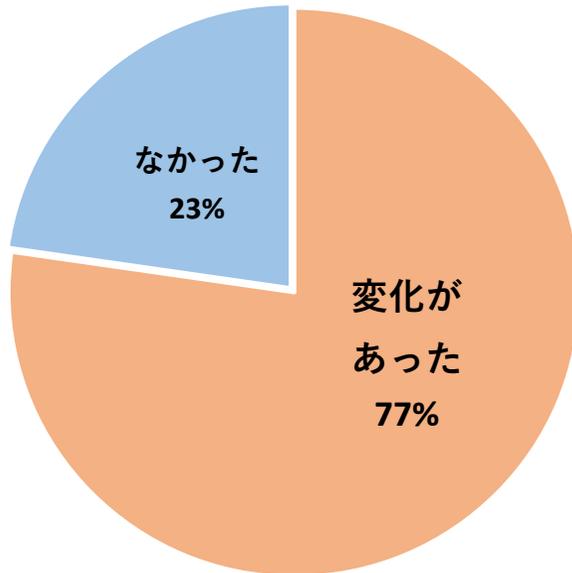


※学内で独創的な研究に挑戦する助教に称号を付与し、優秀な若手のプレゼンス向上、独立環境の整備を進めている。

採択後の波及効果②

■ 所属機関からも、創発事業を契機とした変化が学内にあるとの声。

問. 創発的研究支援事業の創設や研究者採択を通じ、学内の研究者支援等の取組に変化はあったか



令和4年4月～5月にかけ、創発研究者が所属する研究機関の研究担当理事等にアンケートを実施。44機関からの有効回答。

【具体的な変化（自由記述）】

- ・大学をあげて、若手研究者支援の機運が明らかに高まった。また、優れた若手研究者を多数有する大学の現状を再認識でき、今後の研究環境づくりの戦略に資するものとなった。
- ・指導教員制度の変更や若手が実質的なPIとして活動できる制度の創設など、PI育成のための新たな取組を進めている部局が複数ある。
- ・若手研究者等について研究環境のアンケート調査を実施し、個別の情報収集も含めて、現状の問題点の把握に努めた。若手研究者がPIとして独立する過程を支援する部局（若手研究者育成支援室）を設置し、システムティックに支援するしくみを導入した。
- ・学内で行なっていた「若手研究者育成支援パッケージ」の適用範囲を創発事業採択者にも拡大するなど、環境を整えた。創発事業への取組実績も踏まえ、研究者が研究力を最大限に発揮できる研究環境の確保と次代の先端科学技術研究を担う教員・研究者の育成に向けたさらなる体制強化を推進している。
- ・若手研究者への研究支援（資金、設備）の重要性に対する組織内での理解が深まったと感じる。
- ・外部資金獲得実績の優れた助教を間接経費を財源に昇格するなど、優れた若手研究者育成事業を開始した（研究専念環境とスタートアップ経費の提供）。
- ・URAと研究者が近くなった。
- ・若手支援のための共有実験室を増設した。 等

大学全体としての取組への波及（東北大学の例）

- 東北大学では、令和3年度に、創発研究者をはじめ**全学の若手研究者に対する支援パッケージ**を発表。
- **創発をモデルとした独立研究環境の整備に大学がコミットする「プロミネントリサーチフェロー」**創設などを実施。



東北大学若手躍進イニシアティブ

大学は先人の智を受け継ぎ、その土台のうえに新たなフロンティアを築くことで未来の価値を創造しています。東北大学の最大のミッションは、新たな価値創造に向けて、破壊的イノベーションの創出に果敢に挑戦する人材を輩出することです。

東北大学は

若手研究者が躍進する大学

であることを宣言します。

1 若手研究者※が自らのアイデアを実現する独立した研究環境を構築します。

- ・ 「プロミネントリサーチフェロー制度」の創設
- ・ 全学の取組指針「東北大学テニュアトラック制度ガイドライン」の整備

2 意欲ある若手の多様なキャリア形成に向けたシームレスな支援に取り組みます。

- ・ 若手躍進総合支援パッケージ

3 エンゲージメント型大学経営に取り組む大学として若手研究者・学生と総長等との対話を進め、若手の声を施策に反映します。

- ・ 若手研究者と総長の懇談会
- ・ 学生評議員の創設

社会を先導する人材の輩出

プロミネントリサーチフェロー



部局横断で89名(うち女性17名)
※本年2月時点

新領域を切り開く独創的な研究に挑戦する助教に称号を付与。

独立研究環境の促進と優秀な若手研究者のプレゼンス向上に大学を挙げて取り組む。

※博士学位取得後15年以下の研究者

創発事業における研究環境改善支援について（イメージ）

支援のコンセプト：**研究者目線**での大学研究力強化

- **創発研究者と対話の上、研究環境の改善**に努めた機関を広く対象とし、
- **創発研究者を中心に、若手の環境改善等に幅広く使える資金**を提供
- 支援の申請は、**創発研究者の意向も踏まえつつ**研究機関単位で実施

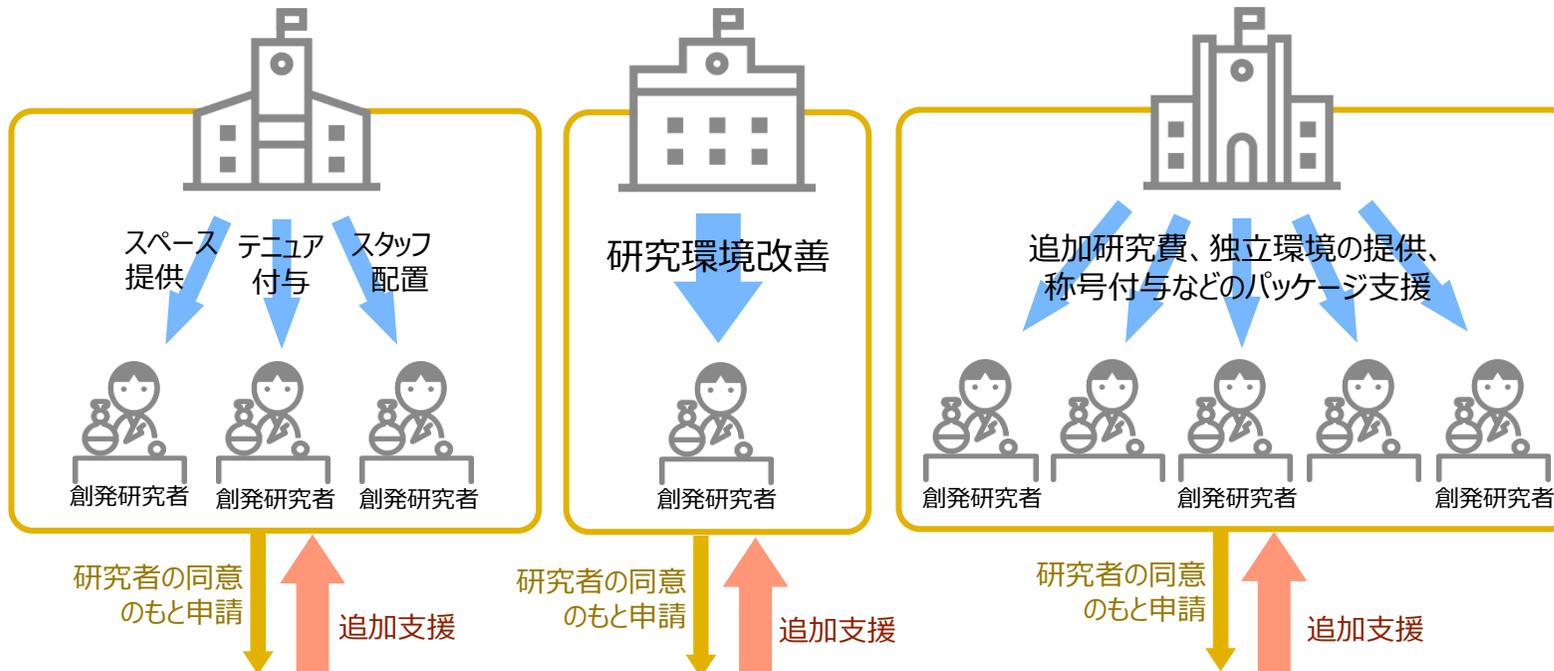


- 🕒 研究時間の確保
- 📈 研究加速・設備整備
- 🌐 ネットワーク形成 等

(例) 個々の研究者の置かれた状況や要望を踏まえ、個別に環境改善を実施したA大学

(例) 採択者は少数だが研究者に寄り添った取組を行ったB大学

(例) 創発研究者を含む学内の若手を対象とした支援パッケージを策定し全学的に支援したC大学



組織マネジメント改革
若手を中心として意欲ある研究者の飛躍を促す研究機関へ

研究者目線での研究環境改善

 PO・ADの協力の下、研究者に対する環境改善の取組実績や今後の研究力強化の取組を評価。**研究者目線で積極的かつ秀でた支援を行った機関に広く支援**（最大5千万円/期 程度を予定）

創発的研究の加速・成果最大化

※研究開始3年目に実施するステージゲート審査までに、各大学等から具体的な取組を聴取の上、支援を決定予定

募集要項における記述

公募に当たっての文部科学大臣メッセージ（抜粋）

文部科学省では、若手を中心とした研究者に、これまでに類をみない最長10年にわたる研究資金と、研究に専念できる環境の整備を一体的に支援する新たな事業を創設しました。（中略）選ばれた研究者が思う存分その能力を発揮できるよう、所属機関が研究環境の整備に努めることを期待するとともに、科学技術振興機構を中心に関係者がきめ細かな支援を行うこととしています。

追加研究環境整備支援

各創発研究者のステージゲート審査時期迄に、研究機関が創発研究者に対して実施した研究環境の改善内容を審査し、追加的に当該研究者を取り巻く研究環境改善のための支援の額を、研究機関毎に決定します。

審査の対象となる「積極的かつ秀でた支援」の事例を以下に示します。なお、以下の事例に拘わらず、創発研究者の研究環境改善に資する取り組みについては評価の対象とする予定です。

- 独立支援（定年制ポストの提供、昇進、研究室・スペース確保・拡大、研究室立ち上げ費用など）
- 研究時間の確保に向けた配慮（バイアウト利用、大学事務負担軽減など）
- 研究加速に向けた支援（研究スタートアップ費、学生の配属、研究・事務補佐員の支援、共通設備の優先利用など）
- その他、研究環境改善や研究モチベーション向上に向けた支援

支援は、1 機関あたり最大 5,000 万円/期（各期の審査毎の最大支援額）程度を予定しています。追加研究環境整備支援の額は、創発研究者が研究機関より受けた支援の内容や支援を受けた研究者の数、また当該研究機関を取り巻く研究環境や各研究機関の取り組みなどを総合的に評価し、決定します。

追加研究環境整備支援は、創発研究者を中心とした、若手研究者の研究環境改善を目的とした用途に利用できます。前述の審査で決定され JST から提示する追加研究環境整備支援の上限額の範囲内で、各研究機関で希望する追加研究環境整備支援を JST に申請いただき、審査の上、必要額を支給します。詳細は別途お知らせいたします。

創発的研究支援事業における「創発の場」等について

「創発の場」の形成（創発的研究支援事業 募集要項 抜粋）

本事業では、**異分野研究の理解と融合研究を目的とした「創発の場」**を、JST及び創発研究者の主導で運営します。創発研究者には、創発 PO、創発 AD や多様な外部専門家等とともに研究分野や所属機関のある地域等の括りごとで開催する合宿形式の創発会議（原則として半年ごと）に参加し、研究成果の発表・議論を行っていただきます。

創発PO、創発ADや多様な外部専門家等と議論・交流をするとともに、創発研究者同士がお互いに切磋琢磨し相互触発することを通じて、**研究者として目指す姿やビジョン、将来の発展的な研究構想を描いたり、チーム型研究の発足等に資するネットワーク構築が促されることを狙い**としています。

また、**研究者の自主的な企画による各種会議（勉強会、公開イベント等）の開催も「創発の場」の一環として推奨し、JST も企画・運営を支援**します。



野心的な研究者×POによるマネジメント×「場」の設定

- ・事業に設置するパネルごとに、PO・ADのもと「創発の場」を毎年度開催。
また、本年5～6月に、**パネル横断の「融合の場」を全国14か所で開催。**

「融合の場」出席者数：1,987名（公開セッション合計。実地・オンライン含む）

- ・異なる分野・他機関の創発研究者と将来に渡る人脈を築き、**思いがけない着想や研究のヒント**を得たり、**融合研究**への発展につなげる。
- ・更に、自身の**研究環境**を見つめ直し、**所属機関との対話**の契機とすることも期待。

▼「融合の場」での研究者同士のディスカッション



@札幌



@金沢



@東京



@大阪



@広島



@福岡 …

政策文書における記載について

■ 経済財政運営と改革の基本方針2022（令和4年6月7日閣議決定）

第4章 5. 経済社会の活力を支える教育・研究活動の推進

破壊的イノベーションの創出を目指し、初期の失敗を許容し長期に成果を求める研究開発助成制度¹⁶⁵を推奨する。

165 ムーンショット型研究開発制度、創発的研究支援事業等。

■ 新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画（令和4年6月7日閣議決定）

初期の失敗を許容し長期に成果を求める研究開発助成制度を奨励する。具体的には、ムーンショット型研究開発制度、創発的研究支援事業をはじめとした複数年度に渡って支援する公募型の研究開発支援について、初期の失敗を許容しより長期に評価を行う方向で改善・強化する。

■ 成長戦略フォローアップ^o（令和4年6月7日閣議決定）

I. 1. (2)（博士課程学生・若手研究者等への支援）

・挑戦的な研究を行う若手研究者を対象に最長10年間の長期的な研究資金と所属機関と連携した研究に専念できる環境確保を一体的に支援する創発的研究支援事業について、当該事業での研究環境改善に係る仕組みの効果検証の結果を踏まえ、定常化も見据えた事業の充実を図りつつ、研究者に対する安定的な支援を推進する。

■ 統合イノベーション戦略2022（令和4年6月3日閣議決定）

第1章 総論 2. (1) ①（若手研究者の研究環境の改善）

自由で挑戦的・融合的な構想にリスクを恐れず挑戦し続ける独立前後の多様な研究者を対象に、最長10年間の安定した研究資金と研究に専念できる環境の確保を一体的に支援する創発的研究支援事業について、当該事業での研究環境改善に係る仕組みの効果検証及び他の研究費事業の見直しを踏まえ、定常化も見据えた事業の充実を図りつつ、研究者に対する安定的な支援を推進する。

事業の現状

- 創発事業は、独立前後の研究者に焦点を当て、最長10年という長期にわたり、所属機関と連携しつつ支援する新たな研究費。基金の特徴を活かしつつ柔軟な支援を可能としてきたところ。
- 支援期間中、研究の第一線で活躍するPO・ADから助言を得つつ、「創発の場」や「融合の場」を通じた研究者同士の知的触発や将来に続く交流を促すなど、PIとしての飛躍を強く促すマネジメントを実施。
- 採択1期生について見ると、採択から1年の間で、任期なしポスト獲得や研究スペース確保など、本事業採択も契機となった所属機関による環境改善が行われはじめており、2期生もそれに続いている。また、一部の大学では創発を起点に大学における若手支援の在り方が検討され、若手研究者全体へ向けた改革が試みられるなど、大学改革の一助を担っている。
- 全国の多様な機関から野心的・挑戦的な研究者を見出し、所属機関のサポートを引き出しつつ支援する仕組みは、将来の大学自身の強みや独自色の発揮にも直結すると考えられる。

事業の今後に向けて

- 若手を中心とした研究者の挑戦を促し、PIとして自立した研究ができるようにするため、**今後の新規公募も含め、事業の継続を図る**方向性について御意見をいただきたい。
- **事業の更なる改善**に向け、例えば以下のような観点から、必要な取組について御意見・御知見をいただきたい。

1. 挑戦的な研究の推進に当たって必要な取組について

- 腰を据えた研究を進めるに当たっての研究現場の課題や、研究者が挑戦し続けるモチベーションを維持するために必要な取組は何か。
- 3年目のステージゲートにおいて留意すべき点は何か。

2. 所属機関と連携した研究環境確保のために必要な取組について

- 積極的な環境整備に努める研究機関へのインセンティブ強化や、好事例の横展開などが考えられるが、他に実施すべき取組や、留意すべき点は何か。

3. 研究者同士の“創発”をより一層促すために実施すべき取組について

- 過去の事例等も踏まえ、研究者同士の交流・融合をより一層促すために必要な取組や仕掛けは何か。